

社会を生き抜く力を育む

～青少年の体験活動の充実に向けた企業の取組～

企業の中で青少年に多様な体験活動の機会を 青少年の体験活動推進企業表彰

[平成27年度]

122事業の応募があり、文部科学大臣賞が2件(大企業部門1件、中小企業部門1件)、審査委員会特別賞が5件(大企業部門3件、中小企業部門2件)、審査委員会奨励賞が26件(大企業部門15件、中小企業部門11件)、選ばれた。本冊子は122事業の優れた実践を紹介している。

[表彰の目的]

社会貢献活動の一環として青少年の体験活動に関する優れた実践を行っている企業を表彰し、全国に広く紹介することにより、青少年の体験活動の推進を図る。

[表彰の対象]

企業がCSRや社会貢献の活動として主催し、参加する青少年を公募して実施したもの。平成27年度表彰は平成26年4月1日～平成27年3月31日に実施された体験活動を対象にした。

[これまでの実績]

平成25年度から表彰を開始。初年度の文部科学大臣表彰は、(株)リコーの「市村自然塾」。小学4年生から中学2年生が9か月間、隔週末に2泊3日の共同生活をして、農作業や星座観察などに取り組む。参加者は共に汗を流し、考え、ルールを守る体験を通じ、自ら成長する。異年齢の青少年に長期にわたって体験を提供する点などが評価された。平成26年度の文部科学大臣賞は、アサヒビール(株)の「日本の環境を守る若武者育成塾」。高校生チームが夏合宿の体験で得た学びを踏まえ、地域の課題解決のためのアクションプラン立案・実践、成果発表に至る半年間のプログラム。主体的、協働的に学ぶ「アクティブラーニング」であることや、地元で継続される点などが評価された。

青少年の体験活動推進 http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taiken.htm



文部科学大臣賞	審査委員会奨励賞	審査委員会特別賞
[大企業部門] アデコ(株) パナソニック(株) 映像制作支援プログラム 「キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)」	[大企業部門] アデコ(株) 「キャリア教育プロジェクト」～「はたらくマインド」を伝えていく参加型授業の取り組み～ (株)NTTデータ ～使う人から創る人へ～ NTTデータ 子どもIT体験教室 プログラミング入門 KDDI(株) ～ITと通信で、距離と震災を乗り越える!～「KDDI×Life is Tech! 東北イノベーターズプログラム」 佐川急便(株) 佐川急便「高尾100年の森」自然体験教室 ALSOK(総合警備保障(株)) ALSOKあんしん教室 損害保険ジャパン日本興亜(株) みんなで守ろう!日本の希少生物種と自然環境「SAVE JAPAN プロジェクト」 大和ハウス工業(株) SAKURA PROJECT(桜プロジェクト) (株)タカラトミー 100ねんあそび。～未来のために、わたしたちができること～ (株)テレビ東京 「テレビ東京の校外学習」～テレビ局の仕事 本物を体験する!～ 東芝テクノソリューションサービス(株) 体験!レジ係 トヨタ自動車(株) トヨタ白川郷自然学校「未来につながる人づくり」 (株)日本取引所グループ JPX起業体験プログラム 日本郵便(株) 「手紙の書き方体験授業」支援	三井化学(株) 化学実験教室「ふしぎ探検隊」 森ビル(株) ヒルズ街育プロジェクト [中小企業部門] (株)阿部長商店 南三陸ホテル観洋 中・高・大学生ホテル就業体験実習 (有)アルファグリーン 戸塚まつり2014 MG牧場/大学生有志による0限活動「ヤギプロジェクト」 (株)伊徳 5・A・DAY 親子で楽しく学ぼう体験学習/食育体験活動 (有)井上商店 出前!うどん講習会 (株)玄米酵素 食育に関する講演・家庭科の授業・料理教室 高知ファイティングドッグス球団(株) 高知ファイティングドッグスサマーキャンプ (株)デルタスタジオ 世界中にともだちをつくらう!いろいろな国の小学生と楽しくあそべるパーティだよ! (株)東京ソワール フォーマルファッション&マナー講座と端切れを利用したもののづくり体験 ネットヨタ群馬(株) ネットヨタ群馬 グリーンツーリズムキャンペーン (株)やすむら 木育推進活動 リヴァックスホールディングス(株) こども農業塾
[中小企業部門] (株)金沢大地 コープ農園 大豆・味噌づくりコース	[大企業部門] (株)静岡新聞社・静岡放送(株) こどもみらいプロジェクト ふじさん部 (株)ユニクロ 「届けよう、服のチカラ」プロジェクト 横河電機(株) 東京都放課後子供教室事業プログラム 「あきるのクラブ」等との連携による 「障害のある子どもの余暇活動支援」	[中小企業部門] (株)モンテディオ山形 モンテディオ山形夢クラス (株)琉球新報社 新報サイエンスクラブ



文部科学省

平成28年3月

担当:文部科学省生涯学習政策局青少年教育課

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2TEL:03-5253-4111(代表) <http://www.mext.go.jp/>

「キッド・ウィットネス・ニュース・ニュース」(KWN)
映像制作支援プログラム
パナソニック(株)
生活・文化



映像制作で協調性・創造性・コミュニケーション能力を向上

パナソニックの映像制作支援プログラム「キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)」は子供自身の目線で物事をとらえ、発信していく活動である。映像制作を通じて表現力やコミュニケーション能力を高めることを目的とし、「考える力」「まとめる力」「伝える力」「チームワーク力」を養っている。

本プログラムは、平成元年にアメリカの子会社が開発し、日本では平成15年から始まり、参加校も年々増加している。“正解のない映像制作”という課題に子供たちが創造性や協調性、時にはリーダーシップを発揮しながら仲間と取り組む。

学校単位5人以上のグループで、「環境」「コミュニケーション」、そしてオリンピックを前に27年から新たに追加した「スポーツ」のうちいずれか1つをテーマに、半年余りをかけて5分間の映像を制作する。そのためにプロの映像作家が参加校に赴き、映像や撮影方法などをレクチャーする「映像制作体験ワークショップ」をはじめ、子供たちがパナソニックのWEB番組に参加してレポーター体験をする「KWNキッズレポート」、「指導者向け研修会」など、総合エレクトロニクスメーカーならではのきめ細かいサポートにも力を入れており、本物の体験をしてもらうことにこだ

わったプログラム運営を実施している。

完成した作品は毎年1回開かれるKWN日本コンテストにエントリーし、最優秀作品1点が世界19の国と地域が参加するグローバルコンテストに出場する。入賞校は海外で行われる表彰式に出席し、映像や直接的な交流を通してグローバルな感性を培う機会となっており、日本からは4年連続で入賞を果たした。

このような活動を滞りなく進めるために、プログラム担当部門の経営幹部が審査から表彰式まで関わるようにしている。また、プログラムへの理解を深めるだけでなく、プログラムの推進についても経営幹部や多くの社員から助言をもらい、改善につなげるようにしている。

さらにKWNを活用した東北復興支援のプログラムも展開している。平成23年からは「きっと わらえる2021」をスタート。地域の教育委員会や自治体と連携しながら、東北の子供たちにビデオ制作を通じて前に進む力を応援する。また、味の素グループの東北応援「ふれあいの赤いエプロンプロジェクト」とも連携し、KWN参加校の生徒が仮設住宅の避難者とともに料理教室を体験し、その様子取材した映像をWEB配信するなど、地域や他企業との連携も深めている。

教育的工夫と成果

- 映像作品を作る過程で「考える力」「まとめる力」「伝える力」そして「チームワーク」を養うことができる
- 全世界のプログラム参加校とのインターネットを介したビデオミーティングや他校訪問を行うことで、国際相互理解を深める

情報発信

- 専門のWEBサイト(KWN日本サイト)で作品づくりのあらゆるノウハウを情報提供
- コンテスト開催にあたり、テレビ・報道機関への案内やリリースの発信。特にローカル局・新聞とは綿密に連携

社内理解

- プログラム担当部門の経営幹部が審査から表彰式まで関わ

ることで、経営陣の理解促進を図る

- コンテストの開催や結果などを社内イントラネットで発信し、社員に情報を提供

本業活用

- プロ仕様の自社業務用映像機材の貸し出しや、プロカメラマンの派遣など、本物の体験にこだわりプログラムを運営

進行管理

- 映像の世界で活躍するカメラマン等の講師から、撮影方法や、シナリオの作り方・編集方法を直接学ぶ
- 指導頂く先生方を対象とした研修会を行い、映像制作のスキルや子供たちとのコミュニケーションのとり方を学ぶ



有機大豆栽培で身近な食への理解深める

「オーガニック大豆の種まきから収穫までの農作業と、自分たちが育てた大豆を活かした石川県産原料100%の味噌づくりの加工まで、一連の流れを継続して体験することにより、地元の食や旬、生物の多様性、有機農業を身近に感じる学びの場を創出したい」。

コープいしかわとの共催で実施した「コープ農園」は、石川県内で有機農業を手掛ける金沢大地が、生産者として消費者と互いに顔の見える信頼関係で結ばれる「双方向トレーサビリティ」を大切にしたいとの思い、作り手と食べる人との関係をより深く身近なものにしたいとの思いとが合致した格好で始まった。

1年目の平成26年度は21家族が登録し、計5回の農作業および加工体験には未就学児を中心に小学生も合わせて累計65人の子供たちが参加した。登録説明会では、有機農業や身近な食について、また大豆の優れている点や、国産大豆の現状、遺伝子組換え大豆などについて説明を受け、参加者たちは生産者の思いを理解した上で大豆栽培を行った。

6月の種まきから始まり、7月の除草、9月には枝豆を収穫して試食した。10月に大豆を収穫、翌年1月にはその大豆を使っての味噌を手づくりし、参加者たちは農業の苦勞と喜びも実感できた。とりわけ大豆の収穫

では、刈り取った大豆の枝を地面に叩きつける「豆たたき」から発展し、地面に敷いたブルーシートの上から大豆の枝を踏みつけて、さやから豆を取り出すなど、手足を使ってのダイナミックな作業を工夫しながら体験した。また畑の生き物の観察など、有機栽培ならではの自然との触れ合いを楽しめる機会にもなった。

このプログラムは1年目の構成を見直し、大豆づくりに特化する形で平成27年度も引き継がれた。枝豆収穫をなくし、味噌づくりもオプション企画とすることで、登録者がより手軽に大豆づくりを体験できるようにした。また、参加者に配布する自宅学習用リーフレットでは、生産者の立場から消費者に知ってほしいことなどの情報を提供し、金沢大学の教授からは知識や情報を自分の生活と結びつけるポイントなどの監修を受けた。前年度より、小さい子供連れの家族の参加が増え、継続参加の家族もあり、食への関心と理解を深めるのに役立っている。

このほか、金沢大地は以前から、食育活動を積極的に行っており、豆腐づくり教室や田植え体験などを通じて、農業や食品加工、生物多様性などを身近に感じられる活動を展開している。

教育的工夫と成果

- 小さい子供でも無理なく参加できるよう、主役になれるような工程を組み込む
- 畑の生物の多様性にも注目を喚起
- 収穫の喜びや食のありがたさなどを実感させる
- 手づくり味噌を作るまでの一連の流れの体験により、身近な農作業への関心を高める

情報発信

- 金沢大地ではFacebookや自社WEBサイトを通して体験の一連の流れを公開し、コープいしかわでは食育BLOGで発信

社内理解

- 「双方向トレーサビリティ」を大切にしたいという社の方針とも合致していたため、代表の指揮の下、意義のある活動として取り組んだ
- 通年の担当者1名以外に、作業の指導の内容に応じて、適性の高いスタッフが分担

本業活用

- 金沢大地の主要有機農産物の大豆が題材。生物多様性が豊かな有機農場を貸し出すことで家庭菜園では味わえない農体験を提供
- 日常的な肥培管理は本業の有機農業者が担当
- 昼食交流会や試食は自社の有機大豆を活かしたメニュー構成で、オーガニックな食事にこだわり、大豆本来の旨みを実感できるように工夫

進行管理

- 天候影響による日程・内容変更もあったが、合意を得ながら柔軟に対応。最終的な大豆収穫量は豊作となった
- 次年度は企業としての負荷が過大にならないよう構成を見直した26年度の体験内容をベースに自宅学習用リーフレットも配布
- 鎌の扱いなどにおいて安全性に配慮。コープいしかわの保険制度の適用も安心材料となった

(株)金沢大地
コープ農園 大豆・味噌づくりコース
生活・文化



(株)静岡新聞社・静岡放送(株)

自然・環境

こどもみらいプロジェクト ふじさん部

富士山を学び、守る 多彩なプログラム

平成25年6月、富士山が世界遺産に登録された。これを機に、地元の誇りである富士山を未来に継承するため、富士山について楽しく学ぶ体験学習をしようと発足したのが「ふじさん部」である。
部員は一般公募で集まった県内小学生。27年度は191名が登録した。「まなぼう!まろう!いかそう!」を合言葉に、体験を通じて富士山について楽しく学ぶプログラムを実施している。富士山麓でのキャンプや、樹海・洞窟の探検、富士登山など、体験を通じて富士山の魅力を実感する活動のほか、富士山本宮浅間大社の公式参拝や富士山をモチーフとした年賀状作りなど富士山の文化的価値について学ぶ活動も実施。また、富士山の鹿の害について学ぶワークショップや、構成資産である三保松

(株)ユニクロ

自然・環境

“届けよう、服のチカラ” プロジェクト

不要となった服を 難民キャンプに

服には寒さや暑さをしのいだり、ケガや病気から身を守ることにつながる命を守るチカラや、おしゃれを楽しんだり、気持ちを明るくするなど人としての尊厳を守るチカラなどがある。世界で本当に服を必要としている人に、児童や生徒がそんな服の持つ役割や付加価値を着なくなった服とともに送るのが、“届けよう、服のチカラ”プロジェクトである。
参加条件は授業、生徒会活動、委員会活動、部活動など20人以上で出張授業を受講できる小・中・高等学校で、ユニクロの社員が講師として学校を訪問する。「難民問題」を踏まえて服の持つチカラや回収した服がどのように役立てられるのかを写真や映像を交えて授業を行い、子供たちが自分にもできる社会貢献があることに気づききっかけを

横河電機(株)

生活・文化

東京都放課後子供教室 事業プログラム 「あきるのクラブ」等との 連携による “障害のある子どもの 余暇活動支援”

社員の趣味や特技を生かし 障害のある子供に成功体験を

「自分たちの趣味や特技を生かして、障害のある子供たちに様々な体験の機会を」。横河電機は社会貢献専門部署を発足した平成20年度に、地域の特別支援学校にニーズを調査し、地域のイベントや行事に参加する機会が著しく少ないという現状を把握した。そこで障害のある子供たちの保護者からなる「あきるのクラブ」と連携して、社員たちが複数のプログラムを用意。子供たちが自ら選び、体験する活動を21年度から行っている。
参加対象は小学部～高等部を中心とした障害のある子供とその兄弟姉妹。フラワーアレンジメント教室や外国人社員との異文化交流、茶

(株)モンテディオ山形

生活・文化

モンテディオ山形 夢クラス

Jリーガーと語る 夢のすばらしさ

夢を叶えるためにはどうしたらいいのか、何が必要なのか。Jリーガーになるという夢を叶えたモンテディオ山形の選手たちが、子供たちと交流しながら「夢」について語り合い、夢への後押しをするのが「夢クラス」である。
毎年、山形県内の全小学校に対して事業の案内をし、申し込みのあった学校から抽選で訪問校を決定する。小学5～6年生の総合学習の授業として45分～60分のクラスを年間14～20回開催しており、スタートした平成17年からこれまで6,000人以上が参加した。
クラスでは選手の自己紹介のあと、児童が夢を発表し、選手からメッセージが伝えられる。そのあと選手への質問があり、クラブから選

(株)琉球新報社

科学・技術

新報サイエンスクラブ

自然科学をテーマに研究をサポート

「新報サイエンスクラブ」は児童生徒の「科学の芽」を育むため、自然や動植物などに興味を持ち、その興味を深められるような「気づき」を促す場として平成23年に発足した。(一財)沖縄美ら島財団総合研究センターの人材育成・公募研究助成事業と琉球新報社のNIE(教育に新聞を)活動を融合し、体験活動の事業を実施している。
沖縄県内の小中学生を対象に「研究したいこと」「研究していること」を公募し、審査により奨励する研究テーマを採択する。採択された児童生徒(個人・団体)は決められた期間内に研究を行い、その内容を発表する。奨励数は小学生部門が20件、中学生部門が10件程度で、上限で小学生部門が1件あたり3万円、中学生部門で5万円が奨

原の保全活動など、地元大学や行政、NPOなどと連携したプログラムも取り入れ、その活動は多岐にわたる。
毎回のイベントはストレートニュースとして報道するのはもちろん、参加した子供の感想や富士山豆知識は、月1回、静岡新聞日曜別刷りの小中学生向け新聞内に「ふじさん部通信」として掲載する。真剣に学んだことを自分の言葉で表現することが、より深い理解に役立ち、新聞に掲載されることで、さらに学びの意欲を盛り立てることにつながっている。部の活動をまとめたテレビ特別番組を放送するなど、本業である新聞・テレビ・ラジオのメディア媒体を活用して、活動の様子を発信している。
さらに「ふじさん部」の認知度向上のため、公式キャ

作る。
児童・生徒はそれぞれアイデアを絞り、告知のためのポスターや回収ボックスを作り、全校生徒や地域に不要となった服の回収を呼びかける。対象は子供服全般で、サイズやブランドは問わない。送られた人のことを考え、気持ちを込めて回収し発送された服は、選別し梱包されて難民キャンプに届けられる。その際、発送用の段ボール箱はユニクロから学校に送り、箱代や送料も同社が負担。学校側に経済的な負荷がかからない仕組みとなっている。
この後、服が届けられた難民キャンプの様子を写真とレポートにまとめた「フォトレポート」が参加校に送ら

道教室、ハイキング、キックターゲット、ヒップホップダンス教室、サッカー教室といったプログラムに26年度は延べ350人が参加した。講師や指導者はそれらを趣味や特技とする社員たちで、これに地元のフットボールクラブやラグビー協会などが協力して開催された。
本業とは全く違う分野であるため、社員一人ひとりの力によるところが大きい。横河電機ではグループの行動規範に明記しているように、地域や社会の共通の目標達成に協力している。この活動は「よき市民」であれ、という企業理念にも合致すると社員たちもとらえている。
また家族や学校関係者のように障害に詳しいわけ

手のサイン入りグッズをプレゼントする。この基本プログラムに沿っていれば、各学校でリクリエーション的な要素を取り入れてもよい。選手を交えたミニゲームやリフティングなど要所にサッカーを取り入れることで、子供たちはプロの技を間近で見ることができ、サッカーへの興味を深め、クラブに対する愛着を高めるとともに、そのチームを擁する山形という地域への「誇り」を持つことにもつながる。
夢を実現した選手たちだからこそ伝えることができる、夢の伝え方や夢を持つことの素晴らしさを子供たちに再認識させ、その道筋について考える場とする。また質問事項に関してもNG項目はなく、子供たちは率

励金として支給される。
対象者が決まった後は、フォローアップと中間報告会が行われ、沖縄美ら島財団の専門職員や琉球大学、沖縄科学技術大学院大学(OIST)、沖縄県理科教育協会などと連携して、個々の児童生徒に合わせてきめ細かいサポートを行う。またOISTの見学会とミニ講演会も実施し、世界トップクラスの英知に触れる機会を提供している。翌年1月には研究発表会が開催されるが、研究に優劣はつけず、自分でまとめた発表することに重きを置いており、そのためのまとめ方セミナーも開くなど安心して研究できる環境を整えている。
選ばれた児童生徒の紹介や研究の経過は「琉球

ラクター「フジノコ」を制作。キャラクターを活かしたオリジナルソングやオリジナル動画も展開している。今後はキャラクターを活かしたグッズの開発も計画。具体的には、三保松原保全を目的に、地元農業高校と共同で三保の松葉を利用した入浴料の開発および販売を計画しており、売り上げの一部は富士山の保全活動に活用するなど、活動の幅は徐々に広がりを見せている。
小学校を卒業した子供や保護者からの参加の要望も多く、今後はそうしたOB部員との連携も図る予定で、富士山を愛する心、守っていく決意が全ての県民に根付くよう、県民を巻き込んだ活動を企画していく。

れる。世界的視野でプロジェクトに携わったという体験は、子供たちの達成感や自己有用感を醸成し、活動へのモチベーションにつながっている。
この活動はエコ教育やキャリア教育に関する団体や企業、教育委員会、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)などと協力して行われ、平成27年のユネスコスクールでもプレゼンテーションされた。初年度の25年度には全国107校が参加、約10万5千着の回収、26年度は120校、約11万着、27年度は238校、約40万着と、支援の輪は広がっている。継続して参加している学校も多い。

ではないため、子供に対して限界を定めず、主体的な行動が促される。その結果、集中が続かない子が、茶道教室では静かに座ることができたりと、その時々で成長の一面が見られ、保護者や教師たちからも驚きの声が上がっている。こうした多様な“成功体験”は障害のある子供たちにもキャリア教育の目的の1つでもある「自尊心」や「人間関係構築能力」が培われ、生涯にわたってQOLの向上にもつながると考えられる。
横河電機では社会貢献活動をする企業との交流会で情報交換し、互いのコラボレーションなども検討している。またこの他にも小学生を対象とした理科教室なども開催している。

直な疑問をぶつけることができる。講師となった選手を応援してくれるので、彼らにとっても貴重な経験となっている。カリキュラムとしてはある程度完成しているが、学校へのヒアリングなどを参考に直しも怠らない。
「地域の人たちに必要な存在になる」ことをクラブのビジョンに掲げており、県内の子供たちを大切に、共に歩いていくことがクラブの発展になるとの考えのもと活動している。これ以外に地域や他企業との連携も進めており、選手たちの食事を通じた食育事業やホームゲームの無料招待など、青少年の育成事業を数多く行っている。

新報」の紙面とWEBサイトで紹介され、本人たちの励みになっている。また中には全国コンクールで中学部の2位を受賞した研究や、研究がきっかけでアジア地域初のメガマウスザメの化石が発見されるなどクラブに対する反響も大きい。
参加者や保護者からは年間を通して研究に取り組むことで、物事への興味関心の高まりのほか、集中力や持続性が身に着き、研究への意欲も高まったとの声もある。クラブではこの事業を通して自然科学の研究者や環境学習・教育の指導者、地域に根ざした次代の沖縄を担う人材育成につなげたいとしている。



静岡新聞 SBS

<http://www.at-s.com/blogs/fujisanbu/>



ユニクロ UNIQLO

<http://www.uniqlo.com/jp/csr/school/>



YOKOGAWA

<http://www.yokogawa.co.jp/cp/csr/community/japan.htm>



Montedio YAMAGATA

<http://www.montedioyamagata.jp/>



琉球新報社

<http://science.ryukyushimpo.jp/>